

# 佐々木創主議会報告

## 第3回定例議会 会期：7月25日

前回の定例議会で、市長・市長派議員と反市長派議員の対立の中で宙に浮いた状況でありました「さげもん館」と「県南女性センター」について執行部から補正予算という形で提案がなされましたが、賛成少数で否決されました。

○「さげもん館」の設計委託料 2,000 千円、県南女性センターの設計委託料 3,000 千円、合計 5,000 千円の補正予算が執行部より提案されましたが賛成少数で否決となりました。

### 内容は

さげもん館は、前回の提案では県南女性センター内に設置とのことでしたが、今回の提案では旧柳川市の計画どおり簡保横に新たに建設するもので、当初の物産販売スペースなどをなくし休憩所・さげもん展示・トイレの設備などにコンパクトに縮小した内容となっており建設事業費は 50,000 千円となっています。この事業は前回の議会報告でご報告した通り、国土交通省の交付金を利用した「快適観光空間整備事業」で平成 15 年度から 3 カ年計画で行われている観光情報センターや観光案内板設置など国・県・市が 1 億円ずつの総額 3 億円での事業であります。

県南女性センターは、前回の提案では国からの交付金も活用してさげもん館を併設し、既存のプール・温泉など、総額 1 47,500 千円で改修しようというものでしたが、今回は既存の和室や大ホールを改修し合計 145 人規模の宿泊施設を持たせ市内小中学校の通学合宿や様々な宿泊研修に活用してもらい、プール・温泉はそのまま存続させようというものです。

### これまでの経緯

#### 6 月定例議会

前回の議会報告の通り執行部提案と旧柳川市の提案の内容（女性センターの改修費）に余りにも隔たりがあり、賛成少数で否決となりました。

その議論の中で、新たにアスベストの問題、耐震構造の問題、旧三橋町の福祉センターを図書館に改修したとき骨格部分のいたみがひどく改修費が設計価格より大幅にかかったということなど様々な問題が指摘されました。

そして、採決を前に市長派・反市長派がお互いの主張と批判をり返すばかりで何とも情けない状況となりました。そして、反市長派からプール新設要望が唐突に出され更に

混乱するといったことになりました。

### 市長と各会派議員との意見交換会

6月定例議会の混乱を受け、議長のとりにしで市長と各会派（市長派13名、反市長派29名、公明党4名、無所属3名）との意見交換会が持たれました。

3会派との意見交換の内容については分かりませんが、無所属の私と藤丸富男議員、共産党の梅崎和弘議員との意見交換では、まず執行部から県南女性センターを廃止し新たにプールを作る場合4～5億円かかるとの説明、さげもん館を取りやめた場合これまでの国からの交付金の取り扱いに問題が出てくることなどの説明がありました。

その内容については理解できるものの、私たち無所属議員から一様に指摘されたのが執行部から出された県南女性センターの改修費について私たちが納得できるだけの資料と説明が不十分であること、そしてなによりこの件は前からの経緯もあり、旧柳川市が県からの譲渡を断ったため解体予算を県議会が議決している以上、執行部と議会が十分に話し合いお互いがすべて納得する形で新たに譲渡申請をしなければ県は受け付けないとの状況の中で、唐突に改修前提の予算を提案するというのは余りにも乱暴なやり方で、議会にかける前に十分な話し合いをすべきであったということを示しました。そして、こういう状況になったからには次回の議会に諮る前に、執行部と議会が十二分に話し合いお互いが納得する形で女性センター問題を解決すべきであるということを示しました。市長も事前の説明が不十分であったこと、女性センターについてはじっくりと議会と話し合いを持つことを約束してくれました。

従って私たち無所属議員は、市長が問題解決に前向きに取り組む姿勢を見せてくれたことに期待感を持って意見交換会を終えました。

### 臨時議会において繰り返された唐突な提案

意見交換会から1週間後、新たな話し合いも持たれず今回の議会の開催となりました。私はあの意見交換会でお互いが2時間に渡り議論し、市長が時間をかけて議会とひざを突き合わせてこの問題解決の約束してくれたのに、何故また唐突なことをされるのか理解できませんでした。このままであれば前回の定例議会の繰り返しとなることは必定で、案の定予想通りの展開と結果になったことは新聞報道のとおりです。

議会開会を前に市幹部から市長に対し県南女性センターについては今回の提案を見送りじっくりと時間をかけるべきとの要請があったにもかかわらず、なぜ市長がわざわざ議会が混乱するような提案の仕方をされたのか理解できません。確かに反市長派の会派は前回の定例議会で市長提案の他の2議案を数に物を言わせ否決しました。しかし、この県南女性センターについて新聞報道以降、問題解決に前向きになっていましたし、こんな唐突なやり方でなく、事前の協議をしていれば接点は見出せたはずです。

新市のスタートにあたって何故こんなことになったのでしょうか。これはまさしく旧

大和町町の混乱状況そのものとなってしまいました。議会解散を叫ぶ議員も少なくありませんでしたがこんなことで解散している場合ではありませんし、市議会が混乱している場合ではないのです。これからの市の総合計画（マスタープラン）旧 1 市 2 町の行政サービスの格差是正などをはじめもっと重要な問題が山積しています。

新しい家の家長である市長は議会を含め全体をバランスよく取りまとめリードしていく責務があります。また新しい家の構成員である議員一人一人も家長である市長と手を携えていく行動していく責務があるとおもいます。

私は、994名の皆さんとお約束した皆さんの代弁者として、何にも偏らない良識と信念を持ってやってまいりましたし、今後も変わらずやっていく所存です。

皆さんのご意見をお待ちしています。

平成 17 年 7 月 26 日

柳川市議会議員

佐々木創主